

こども園 自己評価の報告書

認定こども園ゆうか幼稚園

<評価項目と取り組み状況>

<教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項 >
・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等

→研修で特別支援の理解や個々の特性に応じた支援方法を学んだ。

特別支援の有無にかかわらず、すべての子どもたちが安心してわかりやすい園生活を送れるように、日々の教育保育で計画、実践、評価、反省を今年度も実施した。

また、一人一人の育ちを支援していくために、友達との繋がりの中で自尊感情や自己肯定感を育てていくことや保護者の思いに寄り添い一緒に支援を考えていくことをより一層大切にしたい。

→教育保育環境については、保育者のチェックリストを活用し、職員自身が保育や保育環境を見直す機会を増やしている。

一方では、保育打ち合わせ等の会議や環境整備の時間の十分な確保は難しい。しかしながら、1回分程度の打ち合わせを、1日に必ず1回は実施していくことで、チーム内の共通理解事項が増えていく。その積み上げを進めていきたい。

乳児と保育幼児の子どもたちは、コドモンという ICT 機材の導入とその利用で、さらに情報共有が進められたと考える。

<健康支援>

→「学校安全計画」に基づき、園医の検診や毎月の身体計測を行い子どもたちの健康管理に努め、計測時や日々の保育の中で、自らの心と体に興味関心が持てるよう年齢に応じた保健指導に取り組んだ。

その中で、手洗い、うがいの仕方を日々、個別対応しながら実践し保育の中で積み上げた。また、感染症対策においては、保護者へ可能な限り早く情報発信をした。その際、予防に関する様々なご協力をお願いをし、感染症の予防に取り組んだ。

→子どもたちの行動の中では、何もない所でつまずいたり、周囲を見て動くことが難しかったり、結果的に怪我につながるが多かった。安全面での環境の見直しは、ゴムチップシートの設置や床のフラット化を進めた。一部ではあるが、子どもたちが使う新しい机や椅子や運動用品も準備した。

しかし、同時に普段の活動の中で、体幹を意識した遊びを取り入れ日常の遊びの環境作りも工夫し、子どもたちの健やかな体の育ちにつながる努力を今年度も進めていきたい。

また、園庭の総合遊具を数十年ぶりにリニューアルする計画である。今の子どもたちの活動によりフィットした遊具で、体力向上につなげたい。

<安全管理>

→毎月の安全点検を全職員で行った。危険箇所や修繕必要箇所は、協力会社と連携し、迅速に安全管理に努めた。

→毎月の避難訓練では、今年度は、保護者にご協力いただき、非常災害時のお迎え訓練を行い、「もしも」の時に備えた。そのことについて、家庭で話し合っただけ機会を作れたと考えている。園は非常時に連絡がとれない保護者とのお迎え確認等をどうするかという課題が明確となった。各団体の幾人かの施設長の方の意見の参考にさせていただき、今後も継続して工夫を重ねたい。

→お家の方から、安全対策を強化して欲しいと要望があった。検討して、オートロック設備を導入した。2023年4月から導入している。

<食育の推進>

→幼児の搬入のお弁当給食は1人分の量が決まっており、事前に個別の食べる量を調整することができず、日々の残食に対して食べ物を大切にすることが伝えきれない状況がある。園の課題として取り組む必要がある。
→他の生き物の命をいただいているという感謝の気持ちを持てるように、今後も取り組んでいきたいと思う。
2024年度中に、年長の皆さんだけでも、サツマイモの収穫体験が出来たらと考えている。実現に向けて努力をしたい。

<子育て支援> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等

→感染症対策で、クラス単位での家庭での保育の協力のお願いをしたこともあった。そして、保護者参加の行事や懇談の機会が少なくなった。

以前のように保護者と子どもの話をし、地域の子育て相談を受ける機会が少なくなりました。

感染症対策はあるが、工夫して、できるだけ多くの保護者や地域の方と話し、保護者の思いに寄り添い、一緒に子育てを考えていく機会を作る努力をしたい。

→感染症対策で、地域の方々と職員も園児も直接コミュニケーションをしたり活動したりする機会が少なくなったことに対し、今後はしっかりと感染対策を講じながら、その時の状況に合わせて、地域の中でのこども園の役割をしっかりと担っていききたいと考えている。

<教育・保育内容> ・養護・健康・人間関係・環境・言葉・表現

→年間計画を基に、指導計画を作成し、一つ一つのねらいを明確にしながら、その活動の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の何がしっかりと育つのかを意識し、クラスの実態に応じて子どもの育ちを見て、活動を精査して取り組んだ。

→会議の持ち方（書面や少人数、短時間等）を工夫して取り組んだが、時間の捻出や全職員での打ち合わせが難しく、今後も職員間での情報共有や話し合いの方法等が課題であるとする。

乳児と保育幼児の子どもたちについては、コドモンというICT機材の導入で、情報共有が進められた。今年度は、さらにその利用を教育幼児にも広げて、情報共有の質の向上を進めたい。

<特別支援教育>

→各市町の巡回相談で、個別の支援や友だち関係の中で育つ視点からの支援のあり方について指導、助言を得られた。その後の教育保育で、個別の課題だけに偏ることなく、共に生きる視点での支援にも活かすことができた。

→研修・ケース検討会は、子どもの理解と援助について学ぶことができ、保育の実践に活かせると思う。今後も、個々の特性に応じた支援、合理的配慮について学びを深めていきたい。

→また、特別支援に対応した施設的环境整備を実現するため、園舎の建て替えも含めて進めることが出来るように、市町村の協力がいただけるよう努力を重ねたい。

<職員の資質の向上>

→園内では「感染症対策の人権」「子どもの人権を大切にすること」「多様性を認め合うということ」について、意見を出し合うことで、人権を尊重した教育保育の学びを深めた。

→『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を取り入れ、自身の子どもへの関わりを振り返った。子どもの気持ちを尊重した保育であるかどうか、職員間で見つめなおす機会となった。

今後は、さらに研修方法を工夫して学びを活かした実践を共有する機会を設け、園としての教育保育の質の向上に努めることが課題とする。

<幼保小中の連携>

→感染症対策のため、子どもと小学校や保育園に行ったり、職員同士が、連絡会で意見交流をすることは、以前より少なくなった。

入学前に子どもたちの就学が円滑に進むよう、引き継ぎの機会は設けることはできた。年長児は入学を心待ちにする姿

があった。今後は、交流の質の向上を目指したい。

<関係者評価の取り組み>

→保護者アンケートの結果から、園内で評価と課題について話し合い、次年度の園運営のあり方、保育の方向性等を検討する手がかりとしている。

今年度も、園に求められていることを知ることができた。次年度の参考にしていきたい。

<その他>

→保護者会である父母の会にも、変化がある。今年度も父母の会の活動は、以前よりも少なくなっている。

そして、全乳幼児の4割が保育乳幼児となり、6割が教育幼児という現状である。

父母の会の活動内容や方法についても、様々な配慮が必要とされるが、1972年から大切にしてきた父母の会の理念を、現在の保護者の皆様と共に園も大切にしながら、今後も出来る限りのサポートをしていきたい。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

<本園の教育保育をより理解していただく>

具体的な取り組み方法

→保護者の皆様により理解していただけるよう発信方法を工夫し、保育の見える化を進めることに努める。教育保育の見える化を継続して、各学年の成長過程について、コドモンで積極的に発信し、乳児、幼児から小学生までの子どもの育ちを見通していただけるように進めていきたい。

<職員の資質向上>

→園内研修、園外研修、オンライン研修等の学びが、受け身で終わったり、子どもへのかかわりと結びつかなくなったりすることがないように、さらに検証しながら進めたい。

2024年3月31日
認定こども園ゆうか幼稚園
園長名 中島正資